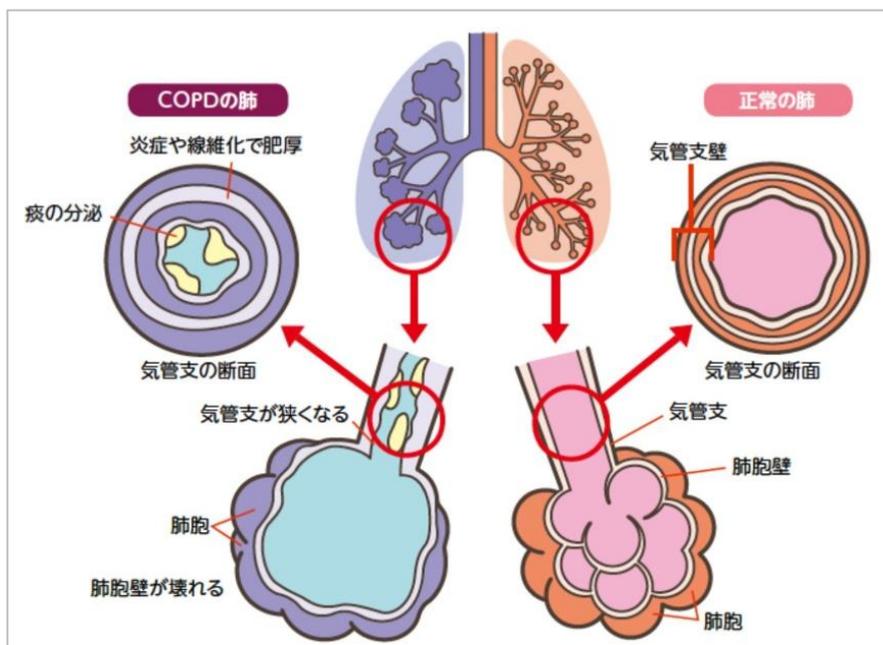


# 週刊 タバコの正体

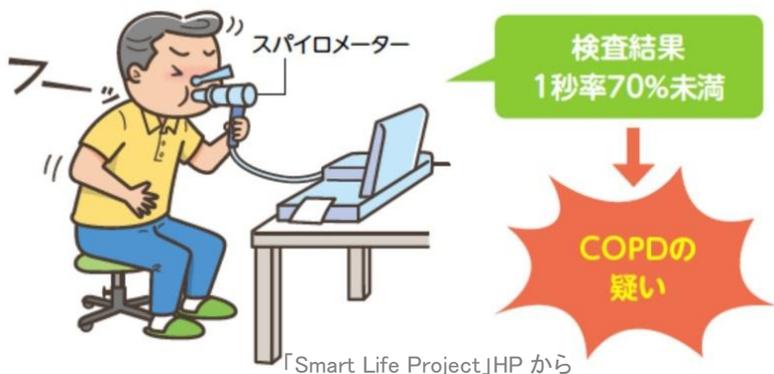
タバコを吸い続けると確実にダメージをうけるのが肺です。とは言っても、その程度は毎日少しずつなので肺の機能が損なわれていても、本人にそんな意識はありません。このような状態が長期間に及ぶと下図にあるように、気管支が炎症や痰など狭くなっていき、さらにその先につながっている肺胞の



壁も壊れます。こんな状態になる病気を COPD (慢性閉塞性肺疾患) と呼びます。

多くの喫煙者がこの病気になりますが、咳や痰がからむなどの症状だけで病気になりかけていると気づく人は少なく、国内に500万人はいると言われています。

昨今では、そんな人を発見するために健康診断などで、スパイロメータという機器を使って、息を吐く力と量を測定しています。



下図にあるように、COPDになっていることに気づかず喫煙を続けるのと、早期に発見し禁煙するのとでは、その後の人生に大きな差がでます。

皆さんはもちろんですが、身近な人にもこの事を教えてあげてください。

産業デザイン科 奥田 恭久

